

2008.3.8

カラヤン生誕100周年 ライブ録音で聴く
巨匠の名演 第2回

プログラム

今年生誕100周年を迎えた世紀の大指揮者、ヘルベルト・フォン・カラヤンの残したライブ録音をお聴き頂く第2回目です。今回はカラヤン得意のレパートリーであったモーツァルト、ベートーヴェン、ブルックナー、ブラームス、ヴェルディの作品です。モーツァルトの“ジュピター”は5種、ベートーヴェンの“運命”は実に6種のスタジオ録音があり、コンサートでも度々取りあげていた曲ですが、共に最晩年に残したこれらの最後の演奏ということになります。ヴェルディのレクイエムも最も得意とする曲のひとつですが、スタジオ録音では実現しなかった最強の歌手陣による演奏です。ブラームスはこの頃売り出し中の若手の名手二人による澁淵とした演奏、ブルックナーも70年代のカラヤンを代表する演奏と言って良いでしょう。スタジオ録音とはひと味違うカラヤンの魅力を聴き取って頂けたらと思います。

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791) :
交響曲第41番ハ長調K551 “ジュピター” ~抜粋

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(1987.5.24 ウィーン・ムジークフェラインザールLive)

ヨハネス・ブラームス (1833~1897) :
ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調Op.108 ~抜粋

アンネ・ゾフィー・ムター (ヴァイオリン) /アントニオ・メネセス (チェロ)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1983.2.19 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)

アントン・ブルックナー (1824~1899) :
交響曲第5番変ロ長調 ~ 第4楽章から

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1973.1.1 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)

*** 休憩 ***

ジュゼッペ・ヴェルディ (1813~1901) :
レクイエム ~ 第1曲レクイエム 安息を / 第2曲 怒りの日 (ティエス・イレ)、
涙の日なるかな (ラクリモーサ) / 第7曲 リベラ・ミ 我を救い給え

ミレルラ・フレーニ (ソプラノ) / アグネス・バルツァ (メゾ・ソプラノ)
ホセ・カレラス (テノール) / ニコライ・ギャウロフ (バス)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1978.8.28 ザルツブルク祝祭大劇場Live)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827) :
交響曲第5番ハ短調Op.67 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第4楽章から

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1988.12.4 ベルリン、フィルハーモニーホールLive)